

様式第 2 号（第 8 条関係）

審議会等会議録

(順不同・敬称略)

会議の名称	令和 5 年度第 2 回加須市介護保険運営協議会
開催日時	令和 5 年 1 1 月 1 7 日（金） 午後 1 時 1 5 分から午後 2 時 4 0 分まで
開催場所	加須市役所 5 0 4 会議室
議長氏名	会長代理 内田 親（副会長）
出席委員	内田 親、加藤 美津枝、藤咲 和子、小林 章子、町田 由男、 神田 修、梅澤 和正、太野 貴宏、爪木澤 和弥、秋葉 豊二、 鎗田 宏、大川 利行、佐藤 進、鈴木 勝幸
欠席委員	三宅 仁
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）第 5 次加須市高齢者支援計画（案）について （2）その他 4 閉会
会議資料 の名称	資料 1 第 5 次加須市高齢者支援計画（案） 資料 1 - 2 高齢者支援計画の施策体系の新旧対照表（案） 資料 2 ウェルシア薬局の移動スーパーが販売を開始 資料 3 チームオレンジ（認知症サポーターによる活動 支援）
会議の公開又 は非公開の別	公開
非公開の理由	－
傍聴者の数	0 人
説明者の 職・氏名	福祉部高齢介護課長 山岸 弘通 福祉部高齢介護課主幹 杉山 大綱、萩原 宏和

事務局職員 職・氏名	福祉部長 野崎 修司 福祉部高齢介護課長 山岸 弘通 健康医療部いきいき健康長寿課長 荒井 幸子 福祉部高齢介護課主幹 佐藤 喜美子、杉山 大綱、萩原 宏和 騎西福祉健康担当主幹 渡辺 努 北川辺福祉健康担当主幹 紫原 克彦 福祉部高齢介護課主事 佐藤 凧沙
その他出席者 職・氏名	
会議録の 作成方法	☒ 要点記録 ☐ 全文記録
その他必要 な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
司会 (佐藤主幹)	1 開会 三宅会長欠席のため加須市介護保険条例施行規則第 9 条第 3 項の規定により副会長の内田委員が会長代理となることを報告
内田会長代理 野崎福祉部長	2 あいさつ <内田会長代理、野崎福祉部長あいさつ>
司会 (佐藤主幹)	3 議事 これより会長代理が議長となり議事を進行いたしますので、内田会長代理、よろしくお願いいたします。
内田会長代理	それでは早速でございますが、議事に入らせていただきます。なお、本日の審議時間は、約 60 分ということで進めさせていただきたいと思っております。限られた時間ではありますが、説明及び質疑等につきましては簡潔明瞭に行っていただき、皆さんからご意見をいただきたいと考えております。 あらかじめ資料は事前にいただいておりますので、皆さんお目を通しておられるかと思いますが、事務局の方から簡潔に説明をしていただいた後、皆さんからご意見等をお受けする形で進めていきたいと思っております。 よろしいでしょうか。 <はい>との声あり ありがとうございます。 それでは、事務局からまず説明を受けました後、ご質疑とご意見等いただく時間を設けるということでお願いをいたしたいと思っております。 それでは事務局、ご説明をよろしくお願いいたします。
事務局 (山岸課長)	(事務局説明) (1) 第 5 次加須市高齢者支援計画 (案) (説明)
議長	大変ご苦労さまでした。

内田会長代理

資料1の第5次支援計画案、大変数字が多くて、なかなか理解しにくいところもあると思うんですが、ただいまの説明等につきまして、皆さんの方から何かご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。

多くの皆さんからいろいろのご発言がいただければと考えておりますので、質問意見はまずは1点ということで、何かご質疑等ございましたら、挙手をもってお示しいただければと思います。

皆さんいかがでしょうか。

太野委員

資料を確認させていただきまして、やはり移送サービスというのがどこの項目見ても一番課題かなというところですが、今実際にその課題に対しての取り組みは、次の計画でどのようにお考えでしょうか。

事務局
(萩原主幹)

ご質問ありがとうございます。

1点目は、市のコミュニティバスの運行の改善を図ってまいりたいということでございます。

2点目は、高齢者の買い物支援として、民間事業者による移動スーパーの運行支援を行ってまいりたいということでございます。

3点目は、高齢者の通院等の外出支援として、総合事業の訪問サービスの内容を、さらに使い勝手の良いサービスに見直しを図ってまいりたいと考えております。

神田委員

水深地区でブロンズ会議を担当しております。

今後の高齢者生活支援を中心として、この調査は非常によく実態を把握されてると思います。今の高齢者の、いろんな生活のニーズがここにほとんど盛られているのではないかなと思います。

そういうニーズに対して、地域として、あるいは行政としてどういうふうに取り組むか、具体的な施策にどこまで落とし込むかっていうことが一番の問題だと思います。

それで、39ページ、日常生活を支える体制づくりの具体的な目標として、高齢者相談センターの認知度向上と、地域ブロンズ会議の認知度向上とありますが、地域ブロンズ会議の認知度を向上するというのが次の3年間の目標として良いのか。そうではなくて、地域ブロンズ会議の具体的な推進を行わないと、もう次の3年間では対応が遅くなるのではないかと考えております。

活動を具体的に進めるにあたっては、やはり活動を支えるための施策を市として実施していただきたい。

例えば水深地区では、すでに生活支援の活動を試験的にスタートしておりますが、ボランティアが草取りに参加し

事務局
(杉山主幹)

たときに、事故が起きた場合のボランティア保険をどうするか、ということが今宙に浮いております。

ブロンズ会議は第2層でやっていますが、今後、水深地区の10自治会が第3層として機能をしない限り、具体的な活動は広まらないと思っております。その第3層の活動に落とし込むためには、やはりそれなりの活動を推進するための施策を市としてきちんと支援をいただきたい。それが行われない限りは、単に認知度を高めるということだけでは、おそらく絵に描いた餅になりかねないという心配がございますので、具体的な活動を進める、進めやすい施策をどのように考えているのか、お聞きしたいと思います。

ご質問ありがとうございます。

まず、この39ページの地域ブロンズ会議の認知度を設定したところからご説明いたします。

まず認知度というふうに設けたところですが、このブロンズ会議の活動というものを、幅広く、色々な方にご参加や認識していただいて、支え合いの取り組みというものをそれぞれできるところから広げていっていただきたい、という考えでございます。そこで、ブロンズ会議というものを1人でも多くの方に広げていきたい、知ってもらいたい、そこで活動を広げていきたい思いで、この認知度というものを設定したというものでございます。

あと、ブロンズ会議の具体的な活動を広げていくための施策ですが、今神田委員さんからお話いただいた通りでございます。こういうふうに進めていくという一本の方針や施策というものを、広く共有することが必要だと思っております。それぞれのブロンズ会議の皆様、今会議に参加させていただきながら、どういう方法がよいかを伺わせていただいているところでございます。また、それにつきまして、今後の施策に反映させていただきたいと考えております。

佐藤委員

自分もちょうど75歳になりまして、これから後期高齢に入っていくわけですが、充実した目標値について、かなり具体的に説明を受けました。

団塊の世代が、これから健康寿命を延ばしたり、いろんなところに参加をして元気に暮らしていくのに、いろんな形、いろんな場所が非常に増えてきているわけですが、実際この目標値で、私たち75歳以上の方々がこれで地域に根をおろして楽しくいい人生が送れる、そんな形になっていくんでしょうか。

半分は自分たちもちょっと不安なんですけど、これからいろんな面で形を整えていくことが一番大事だろうと思

いきいき健康長寿課
(荒井課長)

うので、こうした在宅のサービスとかチームオレンジとかいろいろ話がありましたけども、この目標値で、何とか自立した形がとれるんでしょうか。

そこの辺を教えていただきたいと思います。

ご意見ありがとうございます。

健康の面ですと、「健康寿命の延伸」というところが、介護にならずに自立した生活を送るということで、令和3年度から介護予防事業と、高齢者の保健事業を一体的にとということで、いきいき健康長寿課のほうでいろいろな事業を計画しております。

今、毎年、健康寿命は延びているんですけども、人生100年時代と言われておりますので、これからもできるだけ元気に過ごせるように、今はがん検診とかそういう検診を受けていただいて重症化予防するとか、または健康相談とか保健指導とか、あとは介護予防事業でふれあいサロン事業とか、筋力アップトレーニング事業とか、そういう内容はまたこれからも充実させていきたいと考えております。

町田委員

先ほど外出する時の移動手段の話が出ていましたが、合併を通じてデマンドタクシーを利用して欲しいというようなこともあって、従来あった、通常のバスによる運行路線が、田舎の方ですとほとんどなくなってしまっています。デマンドタクシーに移行して何年か経過していると思うんですけど、一部の市町村では、一旦デマンドタクシーを採用してまた地域の方々に意見を聞いたら、やっぱり元の、バスが何便かでも運行するような形の、停留所に行けばお年寄りが乗れて医者へも行けるというスタイルのバス路線の復活の希望があるようです。

私ども一番行田に近い地域なものですから、加須の街に来るのに約8キロ近くあります。デマンドを利用している人は私の地域でもいらっしゃいますけれど、もしできるのであれば、そういうものの復活を再度検討してもらえないでしょうか。

済生会ができて、地域によってはシャトルバスが走っていますが、田舎の方も、午前中に1便でも2便でも、そういった形のものが復活していただければ、即答はできないと思うんですけども、お願いしたいと思っております。

それと、今あちこちで移動スーパー等も始まっていますが、うちの方も8ヶ所やっています、私も見守りを兼ねて8ヶ所全部毎回毎回回っていますが、一部のところの話を聞きますと、業者さんに任せっきりっていうような

事務局
(山岸課長)

部分が見受けられます。これはやっぱり地域の方々に協力をしてもらって、移動スーパーも末永く継続してやってもらえることが大事だと思います。

お医者さんへ行く移動の関係についても、田舎の方では大切な交通手段でございますので、そういった部分も再度ご検討いただければありがたいと思います。

町田委員さんの方から大変貴重なご意見ありがとうございました。

バスの関係等につきましては、担当課でございます政策調整課の方にも、本日の会議のほうでこういった貴重なご意見があったということでお伝えしながら、またこの計画の関係でも再度その辺も検討しながら進めて参れればと思っております。

今後につきましても、この辺のご意見をまたちょうだいできればと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

加藤委員

支援計画の43ページです。

基本目標6の介護保険制度の安定的な運営、ということで、介護保険料については1月というようにお話でしたけれど、やはり介護給付費を下げて介護保険を抑制していくというのが、ここでは一番大事なことのかなと思っております。

指標のところに、介護保険料の収納率をアップして、それで安定的な運営ということが1つ入っていますけれど、その下にもう1つ、介護給付費の抑制というのか、今1人当たりいくらかかっているけれども目標が何%位落ちるとか、それを入れた方が、保険料を設定していくのにもよりはっきりするのかと思っております。

それと、ここにはないんですけども、この間の決算書を見ますと、基金残高が9億ぐらいあるんですよ。それでこれから今度は第5次として、またいろいろ調整をして値上げするのと思うんですけども、やはり保険料が上がると収納率も下がるということになります。10億位ある基金を、今度のこの計画で保険料の抑制に使うのか、22年度のまでの目標値を見るとちょっと怖いような数字が出てますけど、そのためにその10億を残しておくのか。

そこら辺をちょっとお聞きしたいなと思うんです。

事務局
(佐藤主幹)

まず介護給付費についてですが、計画に当たりましては実績数字をもとに今後の見込みを立てて、積算していく予定です。

やはり必要な介護は必要なものを行わないといけない

事務局
(山岸課長)

というのもございますので、数値で今のところ何%抑制をするというのは、ちょっと難しいかなと考えております。

それでは続きまして基金の活用ということでご説明申し上げます。

加藤委員さんには貴重なご意見、大変ありがとうございます。

お話の通り基金の方は令和3年4年5年の第8期計画におきまして、9億円の積み立てがございます。

それを、次の1月のこの席上で時間をいただきます予定でして、そこが一番重要なところでございます。

保険料を決めていくにあたっても、またご審議いただくことになってございますが、そのときにこの9億円の活用につきましても詳しくご説明申し上げますながら、保険料を、これ右肩上がりで今のところきていますけども、これをどの辺まで抑制できるか、上げ幅をとどめることができるか、その辺も含めまして、1月の介護運営協議会の方に諮らせていただければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

加藤委員

先ほどの回答ですが、介護給付費もいろいろ努力をするというか、移動スーパーをやるとかいろんなことをやるのはこの給付費の抑制のためにやっているものですから、目標値が出ないということはないと思うんです。

このくらいでやっていきましようっていう目標に向けて、この計画に沿ってやっていくわけですから。

事務局
(佐藤主幹)

まず、人口が増えていること、介護認定者も増えていることから、単純な総額で見ますと給付費が減るのは今後も難しいと考えております。

1人当たりの金額でということでも、今の計画には載っているんですけど、報酬改定というのが数年に1度ございまして、単価の方が上がる関係で、1人当たりの給付費の額が減ったか増えたかというのを比べるのが難しい状況です。

なので、給付費の抑制を数値目標とするのは、今のところちょっと難しいかなと考えております。

大川委員

先ほどございましたブロンズ会議のことですが、私の法人の方でも高齢者相談センターの方で関わらせていただいて、立ち上がったブロンズ会議もあるんですけど、なかなか開催趣旨が伝わらない部分もありまして、実際にはほとんど動いてない状況も見受けられます。先ほどご意見がありましたように、ブロンズ会議の認知度もありますが、

事務局
(杉山主幹)

実施する範囲をもう少し明確にさせていただくというところを、ぜひお願いしたいなと思います。

これは1つお願いでもあります。ブロンズ会議で、中には積極的にボランティアの活用という部分でやられている方もいて、ごみ捨てを手伝いに行くなどの移送サービスが現状、課題として挙がってきていますが、ごみ出しは誰がやるのか、民生委員さんがやればいいのかとか、その辺も含めてどのように考えていけばいいのかなというところがあります。

あとデータを拝見させていただく中で、在宅サービスの要支援、軽度の方の受給率が、埼玉県から比較すると下回っていると。その反面、施設サービス等の重度の方の受給率が高いということですが、その辺に関してどのように次期計画を立てていくのかがちょっと見えないかなというのを感じました。

その辺をどうかお聞かせいただければと思います。

ご意見ありがとうございます。

まず最初にブロンズ会議のことからお話しさせていただきます。

ブロンズ会議の活動などにつきまして、今実際始まっているところで、それぞれのブロンズ会議がそれぞれの地域で、どういったことが困っているということですか、こういってことをやりたいというのが、実際のところエリアによってまちまちでございます。町場、例えば商店が多いエリアですとか、反対に人口が少ないエリアですとか、一律、これというふうに共通していることがなかなかない、それぞれなのかなというのが実感としてございます。それに対して、どういったサービスが必要かとか、どういうことが取り組めるのかなということが、今徐々に話し合いをして、形になりつつあるのかなというのが実感としてございます。

それを体現、実現した1つの事例としては、この今お話にございました移動スーパーではないかというふうに感じております。

この移動スーパーのスタートも、もともと循環バスがなくなったりですとか、なかなか運転が難しくなったという方が多いエリアで、買い物に困ったからどうしようかという話し合いからスタートしたものでございました。そこから移動スーパーをやっていただける事業者さんを探そうとかお話ししてみようとか、そういったものに発展したものでございましたので、そのエリアで、何に困って、どういうことができるかという話し合いを、引き続き続けていただけるとありがたいというふうに考えております。

事務局
(萩原主幹)

在宅サービスや施設サービスの、いわゆる受給率をどう考えるかというご質問をいただきました。加須市では、施設サービスの受給率が国・県平均よりも高い傾向にありますが、在宅サービスについては、国・県平均よりも低いという状況にあります。

市といたしましては、在宅サービスの更なる確保が重要であると考えておりますので、施設サービスのニーズとのバランスをとりながら、介護サービスの基盤整備を進めてまいりたいと考えております。

議長
内田会長代理

ありがとうございました。

大体時間が来ております。まだまだお話を聞きたい方、委員さんも居ると思うんですけども、一応、ここで締めをしたいと思います。

よろしいでしょうか。

<はい>という人あり

ありがとうございます。

今皆さんから出ましたご質疑ご意見等につきましては、事務局で整理をしていただきたいと思います。そしてまた検討をしてもらうものもあると思いますので、整理をしていただいて、この第5次加須市高齢者支援計画の総論の大枠につきましては、この協議会として承認することとしたいと思いますけれども、皆さんよろしいでしょうか。

<はい>という人あり

ありがとうございます。

事務局何かありますか。

事務局
(山岸課長)

第5次加須市高齢者支援計画（案）の第2部、第4部、第5部の内容について、12月に第3回介護保険運営協議会として書面審議での開催を依頼。

事務局
(萩原主幹)

資料1－2 高齢者支援計画の施策体系の新旧対照表
(案)
(説明)

議長
内田会長代理

事務局の方から、これからの予定、内容についてのお話がありました。

本日はこの第5次の高齢者支援計画の総論、これについては承認ということですのでよろしいですね。後でまた追加が書

事務局 (杉山主幹)	面審議があるということです。よろしくお願いします。 それから次に、(2) その他の説明をお願いします。 (事務局説明) (2) その他 ・ ウエルシア薬局の移動スーパーが販売を開始 ・ チームオレンジ (認知症サポーターによる活動支援) (説明)
議長 内田会長代理	5 閉会 ありがとうございました。 ちょっと時間が超過いたしました。今日の協議事項は以上ですべて終わりとなります。いろいろ、ご発言いただきましてありがとうございました。 これからも介護保険事業の円滑な実施に向けて、委員の皆様方のご協力をお願い申し上げる次第でございます。 以上で私の務めを終わらせていただきます。 ありがとうございました。
司会 (佐藤主幹)	ありがとうございました。 次回ですが、課長から説明がありました通り、書面での審議をお願いしたいと思います。12月上旬に郵送させていただきますのでどうぞご協力をお願いいたします。 またその次ですが、令和6年1月26日を予定しておりますので、こちらにつきましてはご出席賜りますようお願いいたします。 以上で本日の会議は終了となります。 どうもありがとうございました。
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。 令和5年 12月 (日 署名 <u>内田 新</u>	